

令和5年度（2023年度）第3回みなみ野中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日 時	令和5年（2023年）10月14日（土） 9：30～12：00
場 所	みなみ野小学校 2階 家庭科室
出席者	参加者：荒井、大福、大淵、斉藤 見学者：恒川、藤木、小林 高齢者あんしん相談センター片倉：安藤 はちまるサポート由井：千葉 北野児童館：関戸 児童館統括担当：永井 北野地域事務所長：水越 経営計画課地域づくり担当：新納、三井、橋本、田中 エックス都市研究所：田中、橋爪、堀岡
資料	第3回みなみ野中学校区地域づくり推進会議資料 資料1 プロジェクトPRシート（暫定版） 資料2 地域づくり推進計画 推進会議への思い（掲載イメージ） 資料3 推進計画策定後の体制 資料4 推進計画（たたき台） 令和5年度（2023年度）第2回みなみ野中学校区地域づくり推進会議議事概要

1 開会

- ・経営計画課地域づくり担当より挨拶。
- ・第2回みなみ野中学校区地域づくり推進会議を見学された恒川氏（本日は欠席）から、推進会議の参加の申し出をいただいたことから、恒川氏が新たに推進会議参加者となった。

2 プロジェクトPRシートのとりまとめ

プロジェクトPRシート（「(仮称) みなみ野フェスタ」と「みなみ野を8（∞）倍楽しむ方法づくり」）を基に、修正等がないか全体で確認を行った。

（「(仮称) みなみ野フェスタ」についての意見）

- ・イベント開催場所として「のま小児科の駐車場」の記載をしても大丈夫か。あくまで案であり決定事項ではない。
→削除する。（市）
- ・開催場所の表現としては「駐車場」ではなく「広場」が良い。
- ・随時更新していくのであれば、現時点ではこの内容が良い。
→プロジェクトPRシートは、状況に応じて更新していく予定である。各プロジェクトの内容や進め方は、今後皆さんのやりやすいやり方で決めていただきたい。（エックス都市研究所）
- ・「のま小児科」と「立ち寄ったところで子ども遊び」というキーワードが入っているため、子ども向けのイベントに見えてしまい、多世代が参加できるイベントに見えない。子どもに関連するキーワードを削除しないと、高齢者は参加しにくいのではないか。
→「子ども遊び」はやるかもしれないが、イベント全体の対象は子どもだけではない。
→既存のイベントをつなぎ、多世代がそれぞれ楽しめることがわかると良い。（エックス都市研究所）
→現在記載されているものは、あくまで一例として示していることが分かるように記載すべき。
→記載内容が一例であること、随時更新をすることがわかるように記載する。（エックス都市研究所）

- ・消防団については、消防団がない地域もあると思うので記載するのに抵抗がある。
→みなみ野君田小学校の地域は、昔からやっている消防団がある。
→みなみ野中学校区内に一つは消防団があるので、協力を呼びかければ来てくれるかもしれない。
- ・シニアクラブの活動はかなり活発である。67人の会員がいて、一人平均月に3回ほど活動している。地域貢献活動、健康づくり、生きがいを高める活動、運営活動の4つをやっているが、自然と社会貢献ができていえるように感じる。
→「みなみ野フェスタ」のイベントについては、もう少し高齢者のことも考えてもらえると良いと感じた。
→シニアクラブでブラタモリみなみ野版をやっている。健康づくりの活動として毎月2か所ほど、15~20人くらいで実施していて、様々なところに行っている。
→「ねらい」の中に「みんな」と記載しているが、「多世代」ということを含んでいる。(エックス都市研究所)
- ・自然塾もそうだが、「自然と社会貢献できる」というのはとても大事だと思う。何のために働くかという問いについて、社会学では①収入を得るため、②自己実現、③社会参加があると思うが、そのために地域活動をする人が集まっているかというところではないこともある。参加している一人一人が違う目的を持っている。それぞれの人が自分の人生を楽しむためにやっていることが、結果として社会貢献につながっている、という図式が大切だと思う。自然塾では、全員が里山再生を目標に参加しているわけではないが、結果としてそのようになっている。シニアクラブは目標がいくつかあり、中心スタッフが構造的に運営していると思う。フェスタのようなまちづくりのイベントを作るときも構造化をしていけると良いと感じた。
→この話はプロジェクト PR シートには入れにくいと思うので、今後活動する際に念頭に置いておくと思う。(市)

（「みなみ野を8（∞）倍楽しむ方法づくり」についての意見）

- ・今既に色々な人たちが活動をしているが、その情報を地域の人たちが知らないと思う。そうした情報を発信するプラットフォームがあると良い。You Tube での発信などもあるが、一番大事なのは人づてに共有することだと思う。色んな団体同士がゆるやかにつながりながら活動できると良い。
マクドナルドでは、店の評価が下がった際に、広報の順番をまず来店している人、次にテレビや SNS というように変えたことで、V 字回復をしたという話がある。対面でつながっている人を大切にして、その輪を広げていけると良いのではないかな。
→既存の団体情報をまとめることと、イベントの立ち上げを通してできる人と人のつながりをどのようにアピールするかということだと思う。
- ・隣接地域とのつながりをどう持つかという検討を抜きには考えられない。
- ・活動イメージの中の「発掘」については、自治会などの活動を掘り起こし、それぞれの活動の価値を分析してみるのも面白いと思う。みなみ野地区の可能性についても理論的に分析して、イベントにも還元していく。情報として紹介するだけでなく、活動を評価、分析して発信することも良いのではないかな。
→地域のシンクタンク的なことかもしれない。(市)
→シンクタンクは横柄で上から目線のような感じがあるので、もっとフラットにお互いに知り合い、共有していけると良い。
- ・アウトカムとして社会貢献などができると良いと思っている。分析のことも含めて、市として進めていることもあるので、今後も推進会議の取組を市内で共有していきたいと思う。(市)
- ・最初から、このイベントにはこの意義があります、と決められてしまうとイベントをしにくくなってしまうので、楽しく進めていきたい。
- ・見出した価値はしっかり共有していきたい。
- ・これからの 2040 年に向けてやるものであり、誰かがずっと継続していかなければならないと思う。この会議が解散した後は誰がコーディネートするのか。
→推進会議は解散せず、継続して行っていく。(市)

3 推進計画について

資料3を基に、市から体制や活動の進め方について市から説明を行った。

(市からの説明内容)

- ・計画策定後のプロジェクト推進のための体制について、令和6年度(2024年度)からは、「推進会議」と「活動組織」に分けて進めていく予定である。具体的には令和5年度(2023年度)は推進会議として「みなみ野中学校区地域づくり推進計画」の策定を目的に進めてきたが、令和6年度(2024年度)からは、推進会議としては行政と地域、地域間の連携強化、活動組織としては地域づくり推進計画に基づくプロジェクトの推進という、目的別に体制を分けていきたい。
- ・「活動組織」の例としては、プロジェクトごとに活動組織を作り、プロジェクトを進める方法や、プロジェクトごとに中心人物を決め、組織内外から協力者を集ってプロジェクトを進める方法等がある。事務所や会則の設定などが問題となると思っている。市としては、11ページのパターンBに示した、1つの組織内でグループを作り、プロジェクトを進める方法が皆さんの負担が少ないのではと考えている。
- ・アクションプランについては、随時更新がしやすいよう、推進計画の冊子とは別にデータのみホームページで公開する予定である。義務感ややらされ感なく、全員が無理なく進めていけるよう、「アジャイル型」の工程管理で、活動を支援していきたい。

(質疑応答)

- ・9ページの「活動組織」について、活動を市に申請するのか。組織を作ることのメリットは何か。
→届出をしてもらうことを考えている。推進会議と活動組織を分ける大きな理由としては、口座を開設し補助金なども活用できることに加え、任意団体となるため機動力も高められる。(市)
- ・協議をする会議の場と、活動をする実行部隊を分けるのは良いと思う。みなみ野自然塾やシニアクラブなどの既存の活動との違いは何か。
→推進会議に基づき「地域づくり」を趣旨に活動する団体かどうかという部分が異なってくる。具体的な条件等は現在検討している(市)
- ・活動組織で補助金などが出ようになった場合、既存団体ですでに補助金をもらっている団体は二重取りになるのでこの組織には入れないということか。
→既存団体に所属する人が活動団体のメンバーになるということはある。補助金ごとに目的が決まっているので、二重取りのような問題は起きないと考えている。(市)
- ・支援については、組織に対する支援なのか。それとも活動に対する支援なのか。プロジェクトシートに位置付けてある活動であれば、既存団体でも補助金の支援の対象になるか。
→推進会議に基づく団体が活動することに対して支援することを想定している。現時点では来年度予算が決まっていない段階なので、詳細は決定し次第お伝えする。(市)
- ・市内に活動組織をいくつ作る予定なのか。
→推進会議があるところには作りたいと考えている。現時点では推進会議が4つだが、将来的には37中学校区に設置を予定している。(市)
- ・推進会議数を増やすことも必要だと思う。
→どちらも並行して進めていきたい。(市)
- ・八王子市にはアドプト制度があり認定してもらうことができる。みなみ野自然塾は、お金の問題もあり、NPO法人や一般社団法人にするという話もあったが、NPOにすると大変になるという話もあったので、法人なき市民団体として活動している。実際にやりやすかった。

資料 4 を基に、冊子全体のデザインや、“思い” のページの挿入場所、インタビューを受けるメンバーについて話し合った。

(検討内容)

- ・手に取ってもらえる冊子にしてほしいと思っている。A4 の縦ではなく、横バージョンも検討している。紙の冊子はすぐ配布してしまうと思うので、データ配信も行う。(市)
- ・タイトルに「中学校区」が入っていると、中学校関連の内容だと思われると思うので、「みなみ野地区」などに簡略化できないか。内容がわからないので、中学生の子どもがいる家の人しか手に取らないのではないか。英語で「Minamino Junior High School」と入っているので、これはこれで良いとして、一番目立つタイトルとしては、「みなみ野シティ」など別のタイトルにしたほうが良いかもしれない。
→「みなみ野シティ」にすると、みなみ野だけでなく七国も含まれてしまう。表現の仕方について検討する。(市)
→いずれ七国もみなみ野と一緒にならないとこの活動は成り立たないかもしれないので、今後検討できると良い。
- ・川口や長房の冊子では、メンバーの写真や思いをあまり入れなかった。今回はメンバーの思いをしっかりと載せたいと思う。(市)
→自分の写真を掲載するのは怖いので、名前だけで十分だと感じる。自分の写真はイラストでも良いか。
→写真が苦手な方は、思いを記載した画用紙のみを写真で掲載するなど、掲載方法を検討したい。(市)
- ・インタビューはメンバー 2 名に行い、それぞれ 100～200 文字程度の掲載を考えている。本日は参加メンバーが少ないので、候補者を挙げていただき、市から後日他のメンバーに確認を取ることとしたい。(エックス都市研究所)
- ・インタビューは、まちの人ではなく、このメンバーでやるのか。
→推進会議のメンバーにインタビューする。インタビューというよりも、少し長めのコメントというイメージである。(市)
- ・インタビューに答えた人からも、コメントと写真を撮るのか。
→調整する。長めのコメントとするなど工夫できる。できれば全員載せて、みんなで作っているということがわかるようにしたいと思っているが、もし写真で顔を出したくないという人がいれば、そのように対応したい。(市)
- ・かなり分厚いような気がする。
→全体のページ数を調整することはできるが、ある程度余白がないと読みにくくなってしまう。(市)
- ・体制については、これからこの体制を基本に進めていくので、しっかり説明したほうが良い。難しいと思うが、主体となる体制についての説明は必要だと思う。
- ・「地域づくり推進計画策定経過」はあっても良い。
→よく見る形である縦型が良いと思う。横型は置きにくい。
→文字の向きは縦でも横でも良い。冊子の向きについてもどちらでも対応できる。横型の場合は短辺閉じも長辺閉じもある。(市)
→横型は珍しく、「あれ？」と思わせられるので、手に取ってもらえる可能性もあるかもしれない。(市)
→横型は伸びやかさがあると感じる。パワーポイントを使い慣れている人は、横の方がイメージしやすいかもしれない。
→広げると A1 サイズになるような仕掛けも良いが、手間暇がかかる。デザインを凝る必要もあり、お金がかかると思う。
→横型で短辺閉じではなく、長辺閉じの方が読みやすいと感じる。
→市の事務所などに置く予定である。平置きの場合と、ラックに立てかける場合がある。(市)
→横型に作り、縦にも置けるようにタイトルの向きを変えるとかもあるかもしれない。
→横型で作ることとして、縦に置いた時にもタイトルがしっかり見えるように事務局で工夫して作成してみる。開き方は、長辺閉じとする。(市)

- ・手に取って読む人は、ちゃんと読む人だと思うので、内容はしっかり書くべきだと思う。
- ・インタビュー候補者は2名としたい。プロジェクト各チームのリーダーである、野牧氏と大淵氏にお願いしたいと考えていたがどうか（市）
→（参加者）拍手
- ・インタビューの質問項目は事務局で検討し、文章の編集も事務局で対応する。（市）

4 フォーラムについて

令和6年（2024年）1月14日（日）「地域フォーラム」の開催を予定している。推進会議資料を基に、フォーラムのプログラム内容や呼び込み方について議論した。

（意見）

- ・フォーラムの当日の様子を短い紹介ビデオを撮り、You Tubeで配信したいと考えている。
→動画配信ができるということであれば、事前にチラシなどでその旨記載したい。（市）
→ビデオ撮りを願う人に確認しておく。
- ・シニアクラブの人を誘うなど、自分たちで活動している人たちに声をかけるのが良いと思う。前回の地域ワークショップではあまり人を集められなかった気がする。
- ・終了後のアンケートによると、口コミで参加したという人が多かった。（市）
- ・前は大学の夏休み期間であり、大学生にあまり参加してもらえなかった。しっかり口コミで呼びかけをしていく必要があると思う。

5 情報交換「みんなにシェア・みんなでシェア」

- ・「地域共生のまちづくり推進セミナー」を11月11日（土）に開催する。テーマは、「多様性を認め自分らしくいられる場所」なので、ぜひ参加いただきたい（はちまるサポート由井）
- ・社会福祉協議会で農地を持っている「はちまるファーム」では、地域に出たりすることに難しさを感じている方たちと一緒に植物や野菜に触れられる環境を作っている。お話を伺いながら、進めていくので、興味がある人がいたらぜひ教えてほしい。（はちまるサポート由井）
- ・「はちまる通信 由井」を今年5月の移転後初めて発行した。チラシ表面では、職員や地域の活動について紹介しているので、ぜひご覧いただきたい。（はちまるサポート由井）
- ・みなみ野自然塾主催のイベントとして、10月15日（日）に市民の方も自由に参加してもらえる脱穀のイベントを行う。また、11月19日（日）に玉ねぎの植え付け、12月にはさつま芋のつるを用いたクリスマスリースづくりやお正月飾りを作る講座も企画している。（荒井氏）
→誰でも参加できるのか。
→人数制限する場合もあるが、申し込みいただければ基本的には誰でも参加できる。塾生が中心だが、いつでも体験はできる。
- ・以前からお伝えしているお譲り会について、今回は、チラシの印刷代や、会場費の関係で放課後子ども教室の枠内で実施する。子どもに関連するものに限ったフリーマーケットの無料版をイメージしてほしい。場所は、つどいの森公園内で開催する。来年度は小学校内でやるものと、子どものものに限らず地域でやる2パターンの実施を考えている。（大淵氏）
- ・12月10日（日）10時から午後2時まで、のま小児科でイベントを開催する。ママさん向けのフェイシャルマッサージや多文化共生のブースを設けたり、コンサートを開催したりする予定がある。後ほどメールでチラシを共有する。（小井戸氏）

6 閉会

今回の第4回推進会議の日程確認を行った。

- ・令和5年（2023年）12月2日（土）9時半～12時、場所はみなみ野小学校2階家庭科室で開催する。

7 その他

- ・推進会議終了後、“思い”のコメントを画用紙に記載し、写真撮影をした。欠席者については、後日市が調整し、撮影を行う。
- ・大淵氏のインタビューを実施。後日、事務局が編集し、大淵氏に確認をする。野牧氏のインタビューについては、後日市が調整し、実施する。

以上

グループ/メンバー
※公表するシートには記載しません

居場所+ツーリズム

☆大淵、大倉、斉藤、小井戸、塩沢、田谷、川崎、恒川
☆:リーダー

タイトル

(仮称) みなみ野フェスタ

ねらい

- 地域の資源を知ってもらう。
- みんなの交流の場をつくる。

(自然と社会貢献できる)

多世代

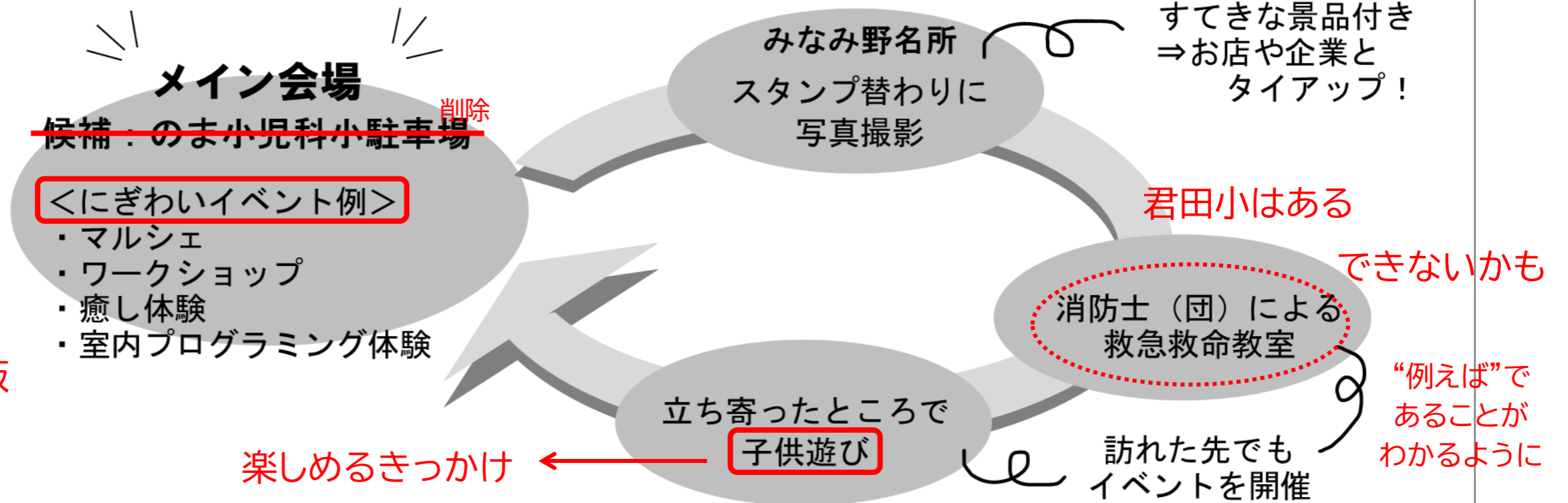
複数のイベントが含まれているイメージ

高齢者への配慮

(高齢者だけだと盛り上がらない)

イメージ

- ・ 駅近くの~~駐車場~~ ^{広場} (候補: ~~のま小児科さん~~ ^{削除}) などを使った、マルシェなどのにぎわいイベントを開催。(一例)
- ・ これをメイン会場に、地域の名所などをめぐるスタンプラリーを同時開催。散策するうちに、みなみ野の資源を知る機会・場になる。
- ・ お店や企業、いろいろなまちづくり団体、住民の方々の参加してもらって開催。



ブラタモリみなみ野版

ウォーキング

PR

- まちづくり団体をはじめ、地域のお店や企業の方々は、ぜひ協力をお願いします。
- 一緒にイベントづくりをチャレンジしましょう。

グループ/メンバー
※公表するシートには記載しません

情報発信

荒井、大山、☆野牧
☆:リーダー

プラットフォームで
つながり一つにする

タイトル

みなみ野を8 (∞) 倍楽しむ方法づくり

ねらい

○発掘・発信、活用を含めた、**地域情報のコーディネート**。
○既存の**行事・活動、人財などのコラボレーションの促進**による、さらなる地域の魅力創出。

現状活動が見えない

どのように
発信して
伝えていくか?

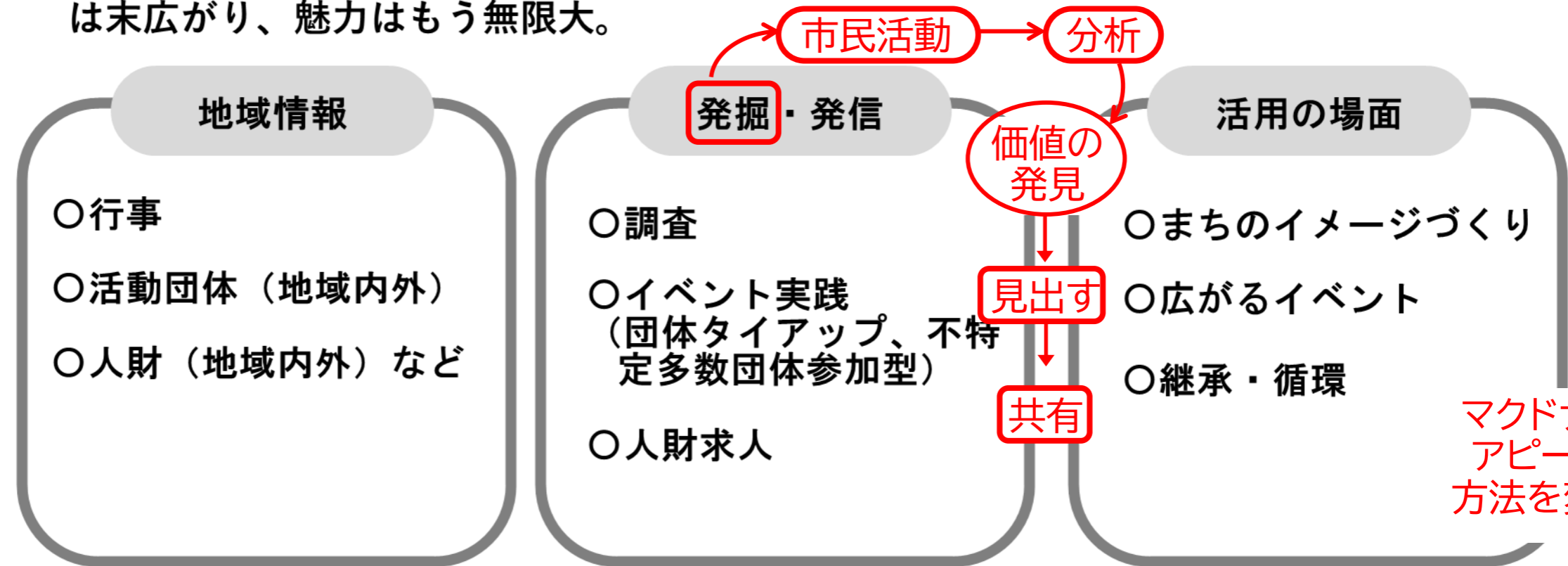
- ・地域内・外のすでにある行事や活動団体・人財などの情報を発掘・発信するだけでなく、上手な活用をコーディネート。
- ・情報発掘・発信のための調査ほか、イベント等と連携など、具体の活動の場面での実践的な情報コーディネートにチャレンジ。
- ・地域情報が、活動・人財のさまざまなコラボレーションを生み出し、みなみ野の未来は末広がり、魅力はもう無限大。

人から人

相談し合えるような
つながりをつくる

イメージ

隣接地域との
つながり



マクドナルド
アピールの
方法を変えた

PR

○地域カルテに登場する行事・団体・人財などがつながって、
みんなで、風を生み出そう。

シニアクラブ
活動活発